

法華経より見たる菩薩の衆生救済について

金 炳 坤

『法華経』にはこう説かれている、「一切すべての如来は、量りしれないほどの教化の手段をもって、多くの衆生たちを救済して、仏の、煩悩を滅し尽くした智慧〔無漏智〕に入らせるであろう」(②, 9b、丸数字は『妙法華』の 28 品を、アラビア数字とローマ字は『大正』のページを示す。なお、現代語訳は藤井教公訳 (2010)『現代語訳妙法蓮華経』アルヒーフより引用した)と。即ち、我らは諸仏によって救済されるのである。

しかしまた仏は、我らをして無上の正しい悟りへ向かう心を起こせしむるべく、「如来は真実には滅することはないのであるが、しかも入滅すると言うのである」(⑩, 43a)とも説かれている。このことは、真実 (寿命長遠) を開こうとして示された仏の方便 (涅槃) となるのである。

しかしながら、濁った時代の悪しき世に生きている「智慧において鈍く、劣った法を楽しみ、生死の世界に執着し、量りしれないほど多くの仏のもとで、深遠ですぐれた道を修行せずに、多くの苦に悩み乱されている、又た、快樂に執着し、愚かさのために盲目となっている、復た、(ものの表面的)すがたにのみとらわれ、おごり高ぶっている者たち」(②, 7c-8a, 9c, 10a)である我らにとって、このことはすみやかには理解できない。

従ってこのことは、我らの現在における救済者の不在を告げることとなる。

そこで、名も無き説法師 (Dharmabhāṅga) たちは、仏滅度後の現前無仏という喪失感に陥っている我らのことを愍み救わんとして、世尊使としての使命感に起ちあがり、一条の光のような〔大乘〕経典を放ったのである。彼らは、釈迦牟尼仏のもととの菩薩としての修行 (行菩薩道) に着眼して、自作の経典の中で新たな饒益 (当得作仏) を導出し、我らをして仏への道を志し求めしむるべく、名を有する架空の菩薩たちを登場させ、この上なく浄らかで辺りなく安らかな道への鏡とせしめたのである。

本発表では、『妙法華』における有名名の菩薩 (43 人、本事等を除くと 37 人、登場順) —— 文殊師利 (①⑫⑭⑰⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿)、過去: 妙光〔①〕、観世音 (①㉕)、得大勢 (①㉒)、無言)、常精進 (①⑱)、無言)、不休息・宝掌 (①、無言)、薬王 (①⑩⑬⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿)、過去: 一切衆生喜見〔⑲〕、過去: 浄眼〔⑲〕)、勇施 (①㉑㉒)、宝月・月光・満月・大力・無量力・越三界 (①、無言)、跋陀婆羅 (①㉒)、弥勒 (①⑮⑯⑰⑱㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿)、過去: 求名〔①〕、異名: 阿逸多〔⑮⑯⑰⑱〕)、宝積・導師 (①、無言)、徳蔵 (①、過去の菩薩、無言)、堅満 (③、未来の菩薩、無言)、大楽説 (①⑬)、智積 (⑫、下方の菩薩)、上行 (⑮⑲⑳㉑㉒)、下方の菩薩、異訳: 上行意〔⑲〕)、無辺行・浄行・安立行 (⑮〔⑲⑳〕)、下方の菩薩)、常不軽 (⑲、過去の菩薩、現在: 釈迦牟尼仏)、宿王華 (⑲⑳)、妙音 (⑲、他土の菩薩)、莊嚴王 (⑲、無言)、薬上 (⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿)、無言、過去: 浄蔵〔⑲〕、有言)、華徳 (⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿)、過去: 妙莊嚴王〔⑲〕)、未来: 娑羅樹王仏〔⑲〕)、得勤精進力 (⑲、無言)、無尽意 (⑲)、持地 (⑲、十六大賢士の一人か)、光照莊嚴相 (⑲、過去: 浄徳)、普賢 (⑲、他土の菩薩) —— について考察し、(1)各々に委嘱された菩薩の役割 (救済、守護など)、(2)このことを踏まえた菩薩の分類の仕方 (本経における具体的菩薩像の提示)、(3)菩薩思想の展開より見たる各品の層位関係 (本経の成立及びその一貫性) という三点について論ずる。

(本文 1375 文字)

〈キーワード〉法華経、菩薩、法師